

共同参画だより



- ▶ 女性活躍・男女共同参画の重点方針 2024 が決定されました。
- ▶ 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」の取組
- ▶ 男女共同参画統計リーフレット 2024 が作成されました。

女性版骨太の方針 2024 女性活躍・男女共同参画の推進のため、「人材育成」に取り組めます！

女性版骨太の方針とは…

女性版骨太の方針とは、**女性の活躍と男女共同参画の推進における重要事項を取りまとめたものです。**正式名称は「女性活躍・男女共同参画の重点方針」といいます。女性を取り巻く問題を解消し、性別を問わず誰もが自身の個性や能力を発揮できる社会を実現するために、中長期的な観点で女性活躍・男女共同参画の取り組みが推進されています。



背景・基本的な方針

我が国における女性活躍の機運は着実に高まっているところですが、女性の登用の状況をめぐる企業間の差異や、女性参画の取組の進捗をめぐる地域間の差異が見られるのが現状です。

こうした状況を改善し、中長期的な観点で、我が国の女性活躍・男女共同参画を持続的に推進していくため、国内外における女性活躍による企業価値の向上を示すデータを含め、女性活躍推進に資する様々な情報の普及を行うとともに、企業や地域において活躍する女性人材の育成、企業の経営層・管理職、男女共同参画センターの職員を始めとする企業や地域における女性活躍・男女共同参画推進のリーダー・担い手の育成・専門性の向上など、「人材の育成」を軸とした取組を進めていきます。

こうした「人材の育成」は、個人の尊厳と安心・安全が守られる社会を実現する上でも不可欠な課題であり、能登半島地震の経験を踏まえ、防災分野における女性の参画拡大等を一層推進します。

また、こうした取組を進めるための基盤として、働き方改革、仕事と育児・介護の両立支援の推進、固定的な性別役割分担意識の解消、女性の健康への支援、配偶者等からの暴力への対策及び性犯罪・性暴力対策の強化などを着実に進めていきます。

そして、改めて、あらゆる分野における政策・方針決定過程に女性が参画する機会の確保に取り組むとともに、あらゆる分野において男女共同参画の視点に立った政策が実現されるよう、政府全体で取組を一層強化していきます。

今年の「女性版骨太の方針」のポイント

女性活躍・男女共同参画を推進するための「人材の育成」を横串に据えたことです。

- その上で、「Ⅰ 企業等における女性活躍の一層の推進」
- 「Ⅱ 女性の所得向上・経済的自立に向けた取組の一層の推進」
- 「Ⅲ 個人の尊厳と安心・安全が守られる社会の実現」
- 「Ⅳ 女性活躍・男女共同参画の取組の一層の加速化」

の4つの柱に沿って、持続的で広がりのある取組の推進を目指すものとしています。

参考：令和6年6月11日女性活躍・男女共同参画の重点方針 2024

輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」とは…

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」(以下、「男性リーダーの会」)は、平成26年に、女性活躍を推進するためには組織トップのコミットメントが重要という想いの下、発足しました。

現在は、企業経営者等や知事・市町村長など約320名が参加しています。会では、男性リーダーが自ら取り組むことを表明する「行動宣言」を策定しており、会に参加した男性リーダーは、行動宣言に沿って、各組織における女性活躍推進の取組を進めています。

行動宣言の内容

- ① 「自ら行動し、発信する」
- ② 「現状を打破する」
- ③ 「ネットワーキングを進める」

今回は、国立大学法人筑波大学学長 永田 恭介氏の男性リーダーの取組を紹介します。

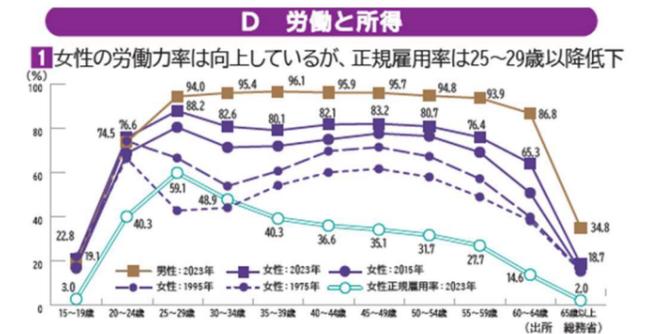
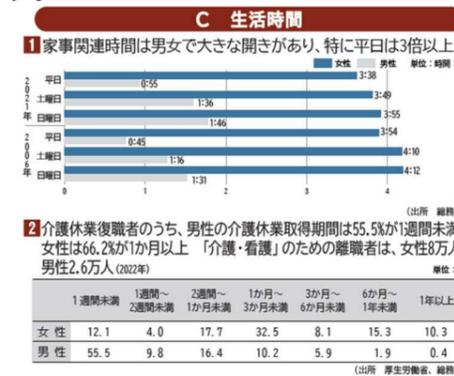
筑波大学はあらゆる面で「開かれた大学」という国立大学では稀な建学の理念を持ち、多様な人材の活躍を支援する「柔軟な教育研究組織」の実現に向けた改革を進めてきました。2016年にはダイバーシティ、アクセシビリティ、キャリアという、それまで縦割りだった支援を統合し、DACセンターという組織を作りました。さらに昨年、マイノリティに支援を限定せず、あらゆる個性に対してインクルーシブな大学となることを目指し、DACセンターを核に、ヒューマンエ、パワーメント推進局(BHE)を設立しました。BHEが企画する学長・副学長や各組織の人事権をもつ執行部が一同に介するダイバーシティ・マネジメント・サミットが定期的開催されています。ジェンダーギャップ解消に向けた課題や取り組み等をトップレベルで共有し、大学全体のD&I推進、質の向上、附属学校との連携強化にもつながっています。

筑波大学は、科学都市つくば市内の企業や研究機関と女性リーダー育成の連携を積極的に進めています。今後は、学内でのジェンダーギャップ解消はもとより、産学連携や地域連携において、教育と研究の両面からD&I推進をリードしていきたいと考えています。

参考：内閣府男女共同参画「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」

国立女性教育会館 「男女共同参画統計リーフレット 2024」作成

国立女性教育会館では、人口・世帯、教育、生活時間、労働と所得、健康・安全・社会保障、地位指標、意思決定といった日本社会の様々な分野における女性と男性の状況を表す基本データ(主として政府機関が行った公的統計データ)を基に作成しています。リーフレットの内容の一部を紹介します。



詳細：<https://www.nwec.go.jp/research/statistics.html>